

2019年度国分寺の未来を考えるシンポジウム  
地域のつながりがまちを守る Part III

**災害時に役立つ防災マップづくり**  
～中学生とともに考える～  
《完成までの軌跡》

社会福祉法人 国分寺市社会福祉協議会  
ボランティア活動センターこくぶんじ

## 【 総 評 】

「天災（災害）は忘れた頃にやってくる」という警句がありますが、近年の災害の頻度を考えれば、「天災は忘れる前にやってくる」というのがより正確な表現だろう。

未だ新型コロナウイルスの感染収束の目途が立たない中、風水害や地震災害がコロナ禍で起きる可能性もあり、複合災害が心配されています。昨年7月の熊本県球磨川氾濫では、感染対策を考慮した避難所生活を余儀なくされました。ボランティアも県内からの参加者に限定されたため、復旧作業の人手不足という問題が生じました。

このような社会環境のなかで、地域防災力の担い手として中学生の活動が期待されています。今回、国分寺市内の中学校から参加した中学生の皆さんの発表内容は、地域密着型の活動であり頼もしい限りです。自治体が作成するハザードマップだけでは、地域の危険な場所などを細かく把握することはできません。ブロック塀や危険な建物のある場所、段差のある道路、大型の緊急車両が通行できない狭い道路、マンホールの位置など、数え上げればきりがありません。一步、家の外に出たら危険だらけです。中学生の皆さんは、これらの危険な場所を実際に自分たちの目で確認して、防災マップを作成しています。まさに地域の人たちに役立つマップとなっています。ジュニア防災検定の防災自由研究優秀賞を受賞した第二中学校の避難行動や避難所での遊び、災害用リュック（非常持ち出し袋）やAEDの使い方についての発表も非常に大切なことです。同じ中学校の仲間とも、今回の発表内容について意見を交わしてみてください。

人間は現時点においては、災害が起きることを防ぐことはできません。しかし、災害の被害を小さくすることは可能です。皆さんはこれからも災害と隣り合わせで生きて行く宿命にあり、日頃からの「防災意識の定着」が重要になってきます。今回の発表を契機として「防災意識の定着」を図ってください。「備えあれば憂いなし」です。

一般財団法人防災教育推進協会  
常務理事・事務局長 濱口和久